

ニ當時ノ人ノ手本トモ可成人ナリト頼之深ク信ジテ此人ヲ還俗セサセテ將軍ノ御傍へ參リ給へ寔ニ苦勞ニテ候ヘドモ平ニ頼ミ申ニテ候略○中還俗ノ事ハ其心ニ可任但數年頼之ニ仕シ如ク將軍ノ御前ニ被有候へ其上ニテ貴邊ノ失アランハ力ナク頼之ガ不覺タルベシ苦勞ノコトサゾアランズルゾ頼之將軍ノ御爲ニ一身ヲ捨テ苦勞ヲ不願將軍ノ御代ヲ治メテ名ヲ子孫ニ殘シコトヲ思フ御邊何ゾ爲頼之身ヲ捨テ老ノ苦勞ヲ不願將軍ニ仕へ奉テ名ヲ殘シ給ザラシカ但實子ナケレバ子孫ノ爲ト云ガタシ只忠ノ一篇ト心得タマヘト被申ケレバ近藤入道力ナク御請申テケリ

〔藩翰譜酒五〕神谷の何某御家人に召れし初政親井○酒に行あひて路次の禮をいたす政親はかくとも知らず打過たり此後神谷政親にあひて頗る無禮をあらはす徳川殿康○家此よしを聞召神谷が常の振舞を試させ玉ふに心直にして行正しく奉公の勞おこたらずかゝるもの御勘當あらんには御家人等皆身を危きものに思ふべし又政親が讒したりなど思ひなんざりとて其儘に召仕れんには家の司が威勢日々に盡て事また治まるべからずせんする所彼に所領賜らんにかねての約に違はゞ一定我家を去るべきものなりと思召て八百石を賜はんと御下文をなさる政親御前に參りて神谷所領賜るべしと承るかれがふるまひよのつねならず過分の所領賜ふべき者なりと申す彼はをこの振舞する男と聞けば八百石の所領賜らんと思ふなりと仰せらる政親大に驚き何條さる事や候べき彼等に所領約の如く賜らざらんには此後誰かは出て仕ふべきたゞ過分の所領たまふべき者なりと申徳川殿汝が申す所心得ず家康が家にし汝に向て無禮せんもの誰かあるべき彼に賜ふ所約の如くにならざらんには彼は一定我家を去るべしと思て斯は計ふなりと仰せられしかば政親愼み承て不肖には候へども君の御恩に依てかゝる身と成て候へば御家人の中に誤ても一人腰膝を屈め手を突かぬ者は候はず夫